

平成26年度

## 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4571900309		
法人名	医療法人朋詠会		
事業所名	グループホーム コスモス苑	ユニット名	西
所在地	宮崎県東諸県郡綾町大字南俣1116番地		
自己評価作成日	平成26年 10月 28日	評価結果市町村受理日	平成27年1月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaisokensaku.jp/45/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kihon=true&amp;izvosvoCd=4571900309-00&amp;PrefCd=45&amp;VersionCd=022">http://www.kaisokensaku.jp/45/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kihon=true&amp;izvosvoCd=4571900309-00&amp;PrefCd=45&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階
訪問調査日	平成26年11月21日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様の体力に合わせ、持ち合わせた機能を十分に発揮できるよう観察して行動に移し、出来る事が増える喜びを感じてもらいたいと思っています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

医療法人を母体に持ち、小規模多機能型居宅介護事業所が併設されている。職員の対応を含め、家庭的な雰囲気である。運営においては、管理者を中心に地域の行事や近隣の保育所の行事などに参加し、地域との関係づくりに努めている。管理者を中心に職員間の関係性が良く、職員にとって働きやすい職場との印象も見受けられた。また、行政や家族会とも連携し、運営をしている。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	西	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝の申し送りの時に全員で読み上げており、お世話をする中で振り返りができており、気づいたことは話し合うようにしている。	日々のケアに生かせるよう、具体化した理念を作成している。毎朝、理念を唱和し、また、ホーム内の目に付くところに掲示するなど、理念の共有と実践に努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事に参加したり、ボランティアの方々を招待して楽しんでいる。	地域の行事や近隣の保育園の行事などに参加し、情報交換を行っている。また、ボランティアの受け入れも積極的に行い、地域との交流を深めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	勉強会を行い、職員間ではレベルアップができるように努力しているが、地域の方々に伝える機会はない。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者の様子や活動報告をしている。家族会からの要望も聞き、ミーティングで出して改善につなげている。	会議ではホームの運営状況を報告したり、また、地域の方から意見をもらうなど、双方向的な会議となるよう配慮がなされている。また、参加メンバーである自治会長や家族会代表とも、日常的に話ができる環境づくりに努めている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	推進委員会に参加して頂いており、入居者の状態報告や空き部屋状況を伝え、協力ももらっている。	町の担当者が毎回運営推進会議に参加するため、介護保険制度の改正や運営上の不明な点など気軽に情報交換ができる関係づくりがなされている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はしていないが、居室の施錠に関しては様子を見て、苑生活に慣れ、穏やかな表情がみられたり、他者との会話で落ち着かれている時などには施錠は中止する。	研修会や勉強会を行い、職員は拘束の弊害についてよく理解しているが、玄関の出入りの自動ドア開閉ボタンの位置が認識しづらい。また、外出傾向の方がいるため、門扉は施錠されている。	外出傾向にある方などの意図を把握し、自由に出入りできるよう、拘束のないケアの取組を期待したい。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会で学んだ内容は報告し、職員同士の気付きをミーティングで話し合い、防止できている。			

自己	外部	項目	自己評価	西	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会に参加する機会がなく、知識不足である。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所の際、説明をするが、気付かれた点などは申し出て頂くように声掛けし、面会時にも声掛けするようにしている。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時には明るく出迎え、伝達事項や要望など、言われた内容は申し送りで伝え、全職員に伝わるようにノートに記入している。気をつかい、意見が言いにくい状態にならないように、こちらから何でも言ってもらえるように声かけをしている。	家族会があり、運営推進会議にも家族の代表者が出席し、意見をもらい運営に生かす取組を行っている。また、来訪時などに細かく近況を報告し、少しでも意見を言いやすいように取り組んでいる。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	仕事をする上での気づきや意見は、まとめて内容を代表者に伝えるようにしている。	月1回の職員会議で、運営や行事など、職員の意見を考慮し計画をしている。また、管理者と職員のコミュニケーションが十分図れており、勤務の中でも気軽に意見が出し合える風通しの良い職場である。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	仕事の内容に変化が生じた時などは、その旨伝え、対応をしてもらっている(早出、残業に対する賃金に対してなど)。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修に参加できるように補助を頂き、その結果を勉強会で全職員に伝えている。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会で話をするのみで、職場間での交流は今はない。			

自己	外部	項目	自己評価	西	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人への聞き取りや家族からの要望をしっかり聞き、日々の様子を見ながらその時に応じたお世話をしている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族からの聞き取りは入所時だけでなく、面会時にも声掛けをしている。本人と家族の意見の違いについては、それぞれの思いに対して話す機会を作るようにしている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	お世話をする中での気づきなどを話し合い、本人に必要な事はサービス内容に追加している。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る事はやって頂くよう声掛けし、手伝いなどをして頂いた時には、感謝の言葉を述べ、共に生活をしている。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	現状の報告を密に行い、面会や外出の際にはゆっくり過ごせる時間を作るように努めている。遠方の家族にも、本人様の生活の様子を記録した用紙を送り、今の状態を理解して頂けるようにしている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会はいつでも受け入れており、ゆっくり過ごせるように、本人様の部屋に案内している。外出はいつでも受け入れている。	家族の支援の下、自宅での生活状況を把握している。お墓参りや買い物など、個々の状況にあわせ、家族とも連携し、なじみの場所への外出など、一人ひとりの生活習慣を尊重している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	声をかけて、歌やゲームに参加して頂いたり、利用者同士がゆっくり会話をされている時には、時間をずらしてお世話をするようにしている。			

自己	外部	項目	自己評価	西	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	面会には行くが、その後の支援はしていない。他の施設に移られる時などは、情報提供書にて報告をしている。			
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	事前面談にて本人希望や意向の聞き取りを行っている。困難な場合は、家族に聞き取りをして把握するよう努めている。		日々の利用者の表情や行動の中から、意向の把握に努めている。また、利用者の情報を本人や家族から聞き取り、少しでも思いや意向に沿えるよう取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前調査(面談)にて、本人や家族に聞き取りを行っている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	記録を行い、職員間での情報の共有を行っている。場合によってはセンター方式を用いて、現状の把握を行う事もある。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月一度のミーティングを実地し、現状を見て、改善が必要な時には家族へ報告し、意見交換を行う。		職員会議で、利用者の状態の確認や職員から日々の状況を聞き取り、介護計画を作成している。また、日々記録する個別の記録用紙に目標を記載し、職員の気づきや利用者の状況を具体的に記録できるよう工夫している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々記録を行っており、申し送りやミーティングを通じて情報を共有し、ケアの実践や見直しに活かしている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の希望を家族に伝え、外出支援をしたりしている。職員に話された内容は家族に伝え、話し合い、また、家族に代わって受診を行う時もある。			

自己	外部	項目	自己評価	西	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	苑の催しごとにはボランティアの方々の踊りや太鼓などで楽しむ時間を設けたり、商店に自分の買い物に出かける方もいる。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医には定期的に受診している。本人が受診できない場合は、状態報告書を提出して、指示を仰いでいる。	かかりつけ医は、本人・家族の希望の医療機関となっている。協力医療機関との連携も充実し、急変時でもすぐに対応できるよう関係づくりがなされている。また、往診による対応もできるよう支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	変化などがある場合は申し送りで伝え、確認してもらう。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際は情報提供書にて伝えている。また、退院が近づいた場合には内容を確認したり、入院中の情報提供書を依頼している。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入退院の繰り返しの中でも、なるべく長く苑で生活して頂くように努めているが、対応できない時には家族と決めた対応を実行している。	看取りについて、ホームとしての統一した方針や具体化したマニュアルはないが、入居後、状態の変化がある場合などは、家族を含め意向・希望の確認を行い、同意を得るよう取り組んでいる。	重度化、終末期の対応や本人・家族への対応について、ホームとしての方針を明確にし、看取りについての具体的なマニュアル作成などの検討も含めた取組に期待したい。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員での一斉訓練はできていないが、急変時は看護師の指示で動いている。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年間を通し、訓練を行っている。地域の災害時の訓練にも参加して避難場所の確認をし、職員に伝えている。	地域との協力体制はないが、マニュアルを作成し、消防署の協力の下、夜間想定を含め、年2回の防災訓練を行っている。	地域の住民を巻き込んだ協力体制を築くよう、災害対策の取組に期待したい。	

自己	外部	項目	自己評価	西	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人様が理解しやすい声掛けをすること、本人様が何か実行された事に対しては、称賛の言葉を送るように対応している。		職員による声かけやケア時の態度などを職員同士で注意ができる雰囲気作りがなされ、利用者を人生の先輩ととらえ、人格の尊重やプライバシーの確保に取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人様との対話の中で、できるだけ希望に近づけるよう、最後まで話をきくよう、努めている。自分のお金がある方はパンや菓子類を購入されたり、入浴日の着替えを自分で選んでもらっている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の体調に合わせて起床時間をずらしたり、レクリエーションも参加するか見学するかは本人の意志に任せている。家族と週二回のペースで外出される方もいる。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	馴染みの美容室に行かれる人や自ら希望してヘアカットを依頼される方もいる。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その日の食事メニューを掲示しているので、利用者同士の会話の中で、食事について話が盛り上がっている。食後に片付けを手伝ってくださる利用者さんもいる。		職員も同じ食卓を囲み、楽しみながら食事をとっている。また、協力医療機関の栄養士によるカロリー等の管理がなされている。後片付けができる利用者には手伝ってもらっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者さんに合わせた食事量を提供し、様子を見ている。また、職員同士で話し合いながら、体調に合わせて、食事の形態も考える。水分量はその都度チェックしている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後居室へ戻り、本人のペースに合わせて声掛け、介助を行っている。			

自己	外部	項目	自己評価	西	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利尿剤服用の方には、早目のトイレ誘導を行い、他者にも二時間おきにトイレ誘導の声掛け、介助を行っている。		排せつチェック表を活用したり、排せつサインを見逃さないようにさりげなく誘導し、昼間はトイレで排せつできるように支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	トイレで腹部マッサージや食物繊維の使用、または薬でのコントロールをしている。水分摂取量が少ない方には声掛けしている。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日は決まっており、声掛けにて順次入ってもらっている。		入浴は週3回行っているが、利用者の入浴したい日や時間にあわせ、毎日入浴できるように配慮している。入浴を拒む利用者には、時間をずらして声かけをするなど、対応に工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	状態に合わせて昼寝をして頂いたり、夜間は個々に合わせた時間で誘導し、就床して頂いている。シーツの洗濯や布団干しも行っている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の作用を確認し、症状の変化に気づいたら看護師に報告し、その後の対応を話しあっている。確実に飲めるよう最後まで見届けている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	全員が参加できるようなレクリエーション作りを工夫している。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ドライブや数人での散歩、また、家族に協力してもらい、自宅や墓参りに行かれる方もいる。		天気の良いときは外出し、季節感を楽しめるように支援している。また、地域の行事に参加したり、外出ができるよう家族へ働きかけも行い、日常的な外出支援に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	西	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の意志でパンを買われたり、物品依頼はこちらですが、支払いは本人自ら行ってもらっている。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が携帯を持っており、自ら電話されている。家族を気にされる時には、電話で話してもらっている。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	夏は中庭からの日が強いため、ゴーヤなどの植物を植えて日除けにし、成長を楽しみにしている。玄関には生け花を飾り、名札を置き、自分で活けた花を見て笑顔になられている。	季節感のある花や掲示物が利用者の会話の一つとなっている。居間は利用者が自由に移動できるスペースであり、採光も良く、居心地良く過ごせるように工夫がなされている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	本人次第で昼寝をされたり、食後その場で会話をされる方やソファーに移動し、テレビを見ながら過ごされる方もいる。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使っていた家具、寝具、小物類を持ってこられている。家族の写真を飾ったりして、本人が落ち着き、笑顔も見えている。	利用者の好みの洋服や家族の写真、利用者がホームで作成した絵などが持ちこまれ、居心地よく過ごせるように工夫をしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所には大きく貼り紙をして分かりやすくし、一人で行けるよう工夫したり、自室の目印に花をつけたりしている。室内には手すりがあるので、それを利用して歩かれている。			